

の堅石、または不朽材を用い、それ以外の地に建植するものは、枕木 2 つ切り、または直径約 15cm、長さ約 1m の木杭を焼焦がしたものをを用いることに規定されている。(高橋浩二)

ようちしゅ 用地手 保線区におかれる職で事務掛の指揮をうけて、とくに指定された用地管理の補助に従事するものである。用地管理の事務は事務掛の職務であるが、都会地などのように、用地管理業務が非常に複雑な区においては、事務掛だけでは用地管理が十分に行えないので、その補助として用地手が配置されている。(加藤誠次郎)

ようちず 用地図 (英)right of way map 鉄道用地とこれに隣接する土地との境界を明示するための平面図。測量中心線より用地境界までの距離、境界線、地番、地目(田、畑、山林、原野など土地の種類)その他必要な事項が記載されている。縮尺は $\frac{1}{500}$ で作図することに規定されている。(高橋浩二)

ようていせん 羊蹄線 室蘭本線豊浦駅を起点とし、羊蹄山麓をめぐる胆振線京極駅を終点とする羊蹄本線と、その他の路線とからなる国鉄自動車路線で、これを所管する豊浦自動車営業所を胆振国虻田郡豊浦町に、喜茂別支所を同郡喜茂別町に設置している。

1 区間・キロ程および沿革

羊蹄本線		
豊浦・京極	51km	昭 23・11・3 開業
幸町・礼文	15	32・5・18
美和・下山梨	6	"
洞爺線		
幸町・向洞爺	23	23・11・3
小花井・大和	6	32・5・18
伊達線		
豊浦・黄金	38	(豊浦・稀府 30・9・5 稀府・黄金 32・3・1)
山下町・網代町(国道回り)	1	
網代町・喜門別	10	32・3・1
網代町・喜門別	10	"
壮瞥線		
網代町・壮瞥	13	30・9・5

2 営業範囲 羊蹄本線は旅客・手小荷物、その他は旅客の運輸営業を行っている。

3 接続駅 豊浦、京極。

4 使命 羊蹄山麓地帯の産業開拓促進と、真狩地区から室蘭本線への短絡を使命とする。

5 特長 喜茂別村を中心とした貨物の区域事業を営営して木材・薪炭・穀物その他の生活必需物資の輸送を行って、特に終戦後の地方経済の復元に大きな貢献をした。当時は喜茂別に営業所が設置されていたが、経営の重点を路線事業に移行し、昭和 30 年度には営業所を豊浦に移転して喜茂別を支所にした。喜茂別地方は道内屈指の馬令薯の産地で、主として本州各地に出荷されている。したがって最近馬令薯のほか澱粉・ビートの輸送も多い。洞爺線は支笏洞爺国立公園の山麓側の交通路に当り、



終点向洞爺は洞爺湖畔の閑静な観光地として今後が期待されている。冬期は積雪のため京極・大和間は例年 12 月から翌年 4 月まで運転を休止する。(福田幸市)

ようひんがかり 用品掛 現業機関中多量の物品を取扱う箇所(たとえば機関区・保線区・電力区・電車区等)におかれる職で、用品手を指導して物品の出納・保管・配給・受渡しならびに物品に関する経理事務に従事するものである。(加藤誠次郎)

ようひんかんじょう 用品勘定 国鉄用品取扱制度の運用に関する経費の整理、およびこれが回収を図る勘定であって、会計上清算勘定と呼ばれ用品収入と用品経費に区分されている。国鉄で使用する用品の購入・保管・配給には種々の経費が必要であるが、この取扱経費および用品購入費等を用品経費という勘定科目で記録整理する。用品を貯蔵品に編入する場合は、この用品取扱に要した経費および購入費等を回収しなければならない。この回収方法として一定の割合をもって用品割掛を定め、これを用品代価に加算して編入する。この価格が用品収入として記録整理される。用品収入は予定率による用品割掛で回収されるものが含まれるので、実費としての用品経費と事業年度末において差額を生ずる。この差額は総括決算箇所において、用品を供給した損益勘定等の経費へ振替整理する結果、経費と収入が同額となること、この勘定の特長である。(中川登代雄)

ようひんこ 用品庫 国鉄の地方資材部の現業機関。そのおもな担当業務は貯蔵品の出納・保管および配給ならびに被服類および時計の修繕である。すなわち国鉄の事業の用に供する物品を保管し、必要の箇所に、必要の時期に、円滑に配給することを任務としているが、一部の用品庫では職員用の制服類や客車用のシート・カバーなどの洗たくおよび修繕ならびに業務用の時計の修繕も行っている。用品庫には岩見沢・綴・戸畑のように石炭を専門に取り扱うところもあるが、資材の運用上および配給上の立地条件等を考慮して設置されており、その総数は 22 である。なお用品庫に、支庫と派出所がある。用品庫には用品庫長が置かれ、地方資材部長の指揮を受け支庫長・助役・事務掛・技術掛・構内手・諸機掛・諸機手・気かん掛・自動車運転士・用品手・技工・試験手・守衛長・守衛および雑務手を指揮監督して、用品庫に属する一切の業務を処理している。これらの職員を用品庫従事員といい、約 2,700 人いる。なお用品庫のほか、被服工場の用品業務を担当する工場用品庫があり、また工場(鉄道車両)および自動車工場には用品倉庫が設置されている。(宮坂正直)

ようひんこせん 用品庫線 (英)storehouse siding (独)Vorratsmagazingleis 用品庫に対する資材の搬入、搬出に専用するため設けられた側線。(西田正之)

ようひんしけんじょ 用品試験所 国鉄の地方資材部の現業機関。そのおもな担当業務は、国鉄で使用する物品の科学的な試験を行うことである。すなわち物品の購入に際して、その物品が所定の規格・仕様書等に合致する物であるかどうかを、分析その他の試験によって判定するところである。このため種々の計器や設備をもっている。用品試験所は、中央用品試験所の設置されている関東地方資材部を除き、全国 8 箇所の地方資材部に設置されている。所長が置かれ、地方資材部長の指揮を受けて助役・事務掛・技術掛・試験手・守衛および雑務手を指揮監督し、用品試験所に属する一切の業務を処理している。これらの職員を用品試験所従事員といい、約 150 人いる。(宮坂正直)

ようひんわりがけ 用品割掛 国鉄の使用する物品を調達し、使用者側に配給するまでの経費は、中間勘定である用品勘定で整理している。この経費の財源として、貯蔵品を購入受入する